

上肢班

學術論文（英文）

1 原著論文

1. Nakayama M, Sakuma Y, Imamura H, Yano K, Ikari K. “Long-term outcome of open synovectomy with radial head resection for rheumatoid elbow.” J Hand Surg Asian Pac Vol. 2018;23(2):192-7
2. Nakayama M, Furuya T, Inoue E, Tanaka E, Ikari K, Nakajima A, Taniguchi A, Yamanaka H, “Factors associated with decreasing serum 25(OH)D among Japanese patients with rheumatoid arthritis: Results from the IORRA cohort study.” Mod Rheumatol. 2019; 29(3):430-5
3. Nakayama M, Furuya T, Inoue E, Tanaka E, Ikari K, Taniguchi A, Yamanaka H, Harigai M. “Factors associated with osteoporosis medication use in Japanese patients with rheumatoid arthritis: Results from the Institute of Rheumatology Rheumatoid Arthritis cohort study.” Osteoporos Sarcopenia.2020; 6:82 – 7
4. Nakayama M, Furuya T, Inoue E, Tanaka E, Ikari K, Taniguchi A, Yamanaka H, Harigai M. “Adherence to denosumab for the treatment of osteoporosis in Japanese patients with rheumatoid arthritis: Results from the IORRA cohort study” Mod Rheumatol 2021; 31(2):510-513.
5. Nakayama M, Furuya T, Inoue E, Tanaka E, Ikari K, Yamanaka H, Harigai M. “Vitamin D deficiency is a risk factor for new fractures in Japanese postmenopausal women with rheumatoid arthritis: results from the IORRA cohort study” Arch Osteoporos 2021 Aug 3;16(1):119. doi: 10.1007/s11657-021-00982-x.

2 症例報告

1. Nakayama M, Sakuma Y, Tobimatsu H, “Recurrent volar dislocation of the metacarpophalangeal joint of the thumb with radial collateral ligament injury: A case report.” Int J Sure Case Rep.2020; 68:96-9

学術論文（邦文）

1. 中山政憲ら. Dupuytren 拘縮に対するコラゲンナーゼ注射の使用経験—リハビリテーション科との連携を含めて—, 日本手外科会雑誌,2019;35(4):566-8(2019.1)
2. 新井健, 別所雅彦, 柳原泰, 中山政憲. 定量的 CT 画像を用いた 3 次元有限要素法による橈骨遠位端骨折に合併する尺骨茎状突起骨折発生機転の解析, 日本手外科学会雑誌,36(2):103-105,2019.
3. 中山政憲. 上肢手術に対する超音波ガイド下末梢神経ブロック, 整形外科最小侵襲手術ジャーナル, 2020;94:63-8(2020.2)
4. 中山政憲. X 線診断 Q&A, 整形外科, 2020;71(4):355-6(2020.4)
5. 清田康弘, 中山政憲ら. 成人経肘頭脱臼骨折の治療経験. 日本肘関節学会雑誌 28(2) 2021.
6. 中山政憲ら. 人工橈骨頭置換術後の変形性肘関節症に対し人工肘関節置換術を施行した 1 例, 日本肘関節学会誌,2022;29(2):286-289(2022.9).
7. 中山政憲. 関節リウマチの MP 関節に対する人工指関節置換術, Orthopaedics,2023;36(2):49-58(2023.2)

著書

1. 中山政憲. Part18,Chapter 67 手と手関節の骨折,脱臼, 靭帯損傷, 総監訳 中島康晴, キャンベル整形外科手術書 原著第 14 版（日本語版）（電子版）, 南江堂,2023 年 3 月
2. 中山政憲. F 変形性関節症 6 変形性手・手指関節症. 日本リウマチ財団教育研修委員会、日本リウマチ学会生涯教育委員会編集. リウマチ病学テキスト,改訂第 3 版,南江堂, 2022.5:pp319-321
3. 遠藤彩佳, 中山政憲. 解剖と遠位橈骨動脈のバリエーション. 吉町文暢 編著, 遠位橈骨動脈アプローチ dRA2020,中外医学社, 初版 2020 年 06 月:pp15-23
4. 中山政憲.手指の外傷.池上博泰編, 整形外科日常診療のエッセンス上肢.メジカルビュー社,初版 2019.7.1:pp354-363

学会発表・その他

1 学術集会における講演(抜粋)

1. 中山政憲,古谷武文,井上永介,田中栄一,谷口敦夫,猪狩勝則,山中寿,針谷正祥,関節リウマチ患者における新規骨折が QOL に与える影響,日本骨粗鬆症学会サマーセミナー, 2019 年 8 月 3 日-4 日,千葉県

2. 中山政憲, Distal Radial Access -Hand Surgeon's opinion-, TOPIC2019,2019年7月12日, 東京都
3. 中山政憲, DISTAL TRANSRADIAL ACCESS, ANATOMY AND RISK: 解剖と合併症のリスクについて, CCT2019, 2019年10月24日-25日, 兵庫県
4. 中山政憲. 上肢領域の疼痛コントロール, 第25回最小侵襲整形外科学会 モーニングセミナー2 (2019年11月9日 東京)
5. 中山政憲. 手指の変形性関節症. 第66回日本手外科学会 (2023年4月20日-21日 東京) 論文レビューセッション

2 主題・パネル・シンポジウム(抜粋)

1. 中山政憲ら. 橈骨遠位端骨折手術における術中整復法の検討. 第68回東日本整形災害外科学会 (2019年9月5日-6日 東京) シンポジウム
2. 中山政憲ら. 手根管症候群の病期の判定とそれに基づく治療戦略. 第95回日本整形外科学会学術総会 (2022年5月20日-23日 神戸) シンポジウム
3. 中山政憲ら. 当院における橈骨遠位端骨折患者への骨粗鬆症治療の介入について -大腿骨近位部骨折患者との比較- 第24回日本骨粗鬆症学会 (2022年9月2日-4日 大阪) シンポジウム
4. 中山政憲ら. 母指CM関節症に対する人工関節全置換術. 第71回東日本整形災害外科学会 (2022年9月17日-18日 東京) シンポジウム
5. 中山政憲. How-to-Treat 4 高齢発症RAに対する治療. 第32回日本リウマチ学会関東支部学術集会 (2022年12月10日 東京) パネルディスカッション
6. 清田康弘, 中山政憲. 鏡視下大菱形骨部分切除併用 Suture button suspensionplasty. 第66回日本手外科学会 (2023年4月20日-21日 東京) パネルディスカッション

3 一般演題(抜粋)

1. 中山政憲ら. 本人関節リウマチ患者における血清ビタミンD値に影響を与える因子について-IORRAコホートをを用いた解析. 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会、(2018年4月27日 東京)
2. 中山政憲ら. 日本人関節リウマチ患者における血清ビタミンD値に影響を与える因子について-IORRAコホートをを用いた解析-. 第20回日本骨粗鬆症学会、(2018年10月26日-28日 長崎)

3. 中山政憲ら.日本人関節リウマチ患者における血清ビタミンD値に影響を与える因子について-IORRAコホートをを用いた解析-,第5回 Neo Vitamin D Workshop 学術集会, (2019年8月23日 東京)
4. 中山政憲ら.日本人関節リウマチ患者におけるデノスマブの継続率-東京女子医大膠原病リウマチ痛風センターIORRAコホートでの検討-,第21回日本骨粗鬆症学会, (2019年10月11日-13日 兵庫)
5. 中山政憲ら.日本人リウマチ患者においてビタミンD欠乏は新規骨折のリスク因子である-IORRAコホートでの検討-,第64回日本リウマチ学会 (2020年8月17日-9月15日 Web開催)
6. 清田康弘ら.成人尺骨肘頭骨折に対するTension band wiring法術後の成績不良例の検討. 第69回東日本整形災害外科学会 (2020年9月18日-10月4日 Web開催)
7. 中山政憲ら.リウマチ手に対するMP関節温存軟部組織形成術. 第69回東日本整形災害外科学会 (2020年9月18日-10月4日 Web開催)
8. 中山政憲ら.リウマチ手に対するMP関節温存軟部組織形成術. 第14回日本CAOS研究会/第26回日本最小侵襲整形外科学会 (2020年9月21日-22日 Web開催)
9. 中山政憲ら.日本人リウマチ患者においてビタミンD欠乏は新規骨折のリスク因子である-IORRAコホートでの検討-,第22回日本骨粗鬆症学会 (2020年10月9日-11日, Web開催)
10. 中山政憲ら.上肢手術に対する末梢神経ブロックの有用性と限界について. 第94回日本整形外科学会学術集会 (2021年5月20日-21日 東京 ハイブリッド開催)
11. 清田康弘ら.禁煙によりヒト血清中のオステオカルシンおよび低カルボキシル化オステオカルシンの濃度は上昇する. 第36回日本整形外科学会基礎学術集会 (2021年10月14日-15日 三重, ハイブリッド開催)
12. 中山政憲ら.人工橈骨頭置換術後の変形性肘関節症に対し人工肘関節置換術を施行した1例. 第34回日本肘関節学会学術集会 (2022年2月11日-12日 愛知, ハイブリッド開催)
13. 清田康弘ら.上腕骨遠位端骨折術後に抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)を発症した1例. 第34回日本肘関節学会学術集会 (2022年2月11日-12日 愛知, ハイブリッド開催)
14. 内野まり恵ら. PMRIを合併した小児肘関節脱臼骨折に対してtwo window approachで治療した2例. 第36回東日本手外科研究会 (2022年3月3日 茨城)
15. 谷光律, 中山政憲ら.母指に発生した有棘細胞癌に対しセンチネルリンパ節生検を併用し切断術を施行した1例. 第62回関東整形災害外科学会 (2022年3月12日 東京)
16. 中山政憲ら.当院における橈骨遠位端骨折患者への骨粗鬆症治療の介入について -大腿骨近位部骨折患者との比較-.第65回日本手外科学会 (2022年4月14日-15日 福岡)

17. 中山政憲ら. 当院における橈骨遠位端骨折患者への骨粗鬆症治療の介入について. 第50回日本関節病学会 (2022年10月21日-22日 新潟)
18. 清田康弘ら. 肘関節周囲の腫瘤から診断できた悪性リンパ腫の1例. 第35回日本肘関節学会学術集会 (2023年2月3日-4日 山形)
19. 渡邊直貴ら. 肩関節に発生し激痛を伴った樹枝状脂肪腫の1例. 第708回関東整形災害外科学会月例会 (2023年2月25日 東京)

4 ポスター(抜粋)

1. 中山政憲ら. 関節リウマチ患者における骨粗鬆症治療薬使用の関連因子-東京女子医大膠原病リウマチ痛風センターIORRA コホートでの検討-, 第21回日本骨粗鬆症学会 (2019年10月11日-13日, 兵庫)
2. 中山政憲ら. エストロゲンの手指・足趾の変形性関節症に与える影響と治療標的分子としての可能性. 第11回国際医療福祉大学学会学術大会 (2021年11月14日 成田, ハイブリッド開催)

5 その他講演(抜粋)

1. 中山政憲. テリパラチド酢酸塩製剤の治療薬としての汎用性. 骨粗鬆症フォーラム (2018年9月28日 東京)
2. 中山政憲. リウマチ手肘手術の最近の話題. 東葛エリア・リウマチ懇話会 (2018年12月4日 千葉)
3. 中山政憲. リウマチ手肘手術のトレンド -教えからの進化-. 第2回文教育椎・関節ロマンの会 (2018年12月14日 東京)
4. 中山政憲. 関節リウマチと骨粗鬆症 -手外科医の視点から-. 第2回国際関節スポーツ科学カンファレンス (2019年1月12日 東京)
5. 中山政憲. ～手や肘の痛みで困っていませんか～ 痛みの原因を正しく知ろう. 第62回国際医療福祉大学市川病院けんこう教室 (2019年1月19日 千葉)
6. 中山政憲. 手肘の変形性関節症について. 第3回国際医療福祉大学市川病院医療連携症例報告会 (2019年3月7日 千葉)
7. 中山政憲. リウマチ手肘治療の考え方 ～手術に踏み切るタイミングは?～. リウマチエリア web セミナー (2020年12月10日 Web) 特別講演
8. 中山政憲. 当院における骨粗鬆症治療ならびに病診・病病連携に対する取り組み. 成

- 田骨粗鬆症連携講演会（2021年2月26日 Web）特別講演
9. 中山政憲.CAG/PCIの新しいアプローチ法（dRA）における解剖と合併症のリスクについて -手外科医の視点から-.PCI Web セミナー～より低侵襲なアプローチを模索する～（2021年3月2日 Web）特別講演2
 10. 中山政憲.整形外科外来で出会った神経内科疾患. Orthopedics & Neurology Collaboration Workshop（2021年3月25日 Web）基調講演
 11. 中山政憲.整形外科医(手外科医)が取り組むリウマチ診療. 印旛 RA オンラインセミナー（2021年3月29日 Web）第一部講演
 12. 中山政憲. 新規開設病院が地域において果たせる役割は何か -整形外科医(手外科医)の立場から-. 印旛新時代病診連携セミナー(2021年5月12日 千葉) Lecture 1
 13. 中山政憲. 整形外科医(手外科医)が取り組むリウマチ診療と地域連携. 成田・旭リウマチセミナー 2021(2021年5月17日 千葉) 特別講演
 14. 中山政憲. 関節リウマチの最近の話題 -手外科医の視点から-. 佐倉関節病セミナー（2021年5月26日 千葉）特別講演
 15. 中山政憲. リウマチ手・肘手術のトレンド. 若手医師のための RA Educational Web 講演会（2021年6月24日 WEB）講演
 16. 中山政憲 整形外科医が考えるリウマチの診断・治療プロセス. 骨とリウマチのベシックスセミナー in Chiba ~今さら聞けない骨粗鬆症とリウマチの基礎知識~（2021年8月30日 千葉） レクチャー1
 17. 中山政憲. 手外科医が考えるリウマチ診療. 印旛市郡リウマチセミナー（2021年11月19日 千葉） 基調講演
 18. 中山政憲. 整形外科医が取り組むべきリウマチ診療 -JAK 阻害剤を含めた薬物治療から外科的治療まで-. 整形外科医の適正使用とリウマチ診療におけるアプローチ（2022年3月18日 東京）
 19. 中山政憲. リウマチ手・肘の診療 -最近の話題- 第10回 御茶ノ水上肢外科セミナー（2022年7月1日 東京） 講演
 20. 中山政憲. 手・肩の最新治療. 国際医療福祉大学成田病院 市民公開講座『せぼね・手・足の痛み、あきらめていませんか?』（2022年7月16日 千葉）講演
 21. 中山政憲. 手外科・上肢領域における最近の話題 -神経障害性疼痛のコントロールも含めて-.外房神経障害性疼痛セミナー（2023年2月15日 千葉）特別講演
 22. 中山政憲. 手外科・上肢領域の痛みについて-神経障害性疼痛管理を含めて- 高齢者トータルケアセミナー（2023年2月22日 千葉）講演
 23. 中山政憲. 骨粗鬆症に対する知識の共有と骨折リエゾンサービス（FLS）の意義について-当院の臨床例および病診・病病連携に対する取り組みを含めて-.印旛医療圏骨粗鬆症二次性骨折予防セミナー（2023年3月15日 千葉） 特別講演
 24. 中山政憲. リウマチ手術の最近の話題-手・肘を中心に. 第44回金鯨手外科セミナー.

(2023年3月23日 愛知) 特別講演

脊椎脊髓班

學術論文 (英文)

1 原著論文

1. Funao H, et al. Utilization of a technique of percutaneous S2-alar-iliac fixation in immunocompromised patients with spondylodiscitis. *World Neurosurg* 2017; 97:757.e11-757.e18
2. Watanabe K, Funao H (among authors) et al. Surgical outcomes of spinal fusion for osteoporotic thoracolumbar vertebral fractures in patients with Parkinson's disease: : what is the impact of Parkinson's disease on surgical outcome? *BMC Musculoskelet Disord* 2019;20(1):103.
3. Tamai K, Funao H (among authors) et al. Risk factors for proximal junctional fracture following fusion surgery for osteoporotic vertebral collapse with delayed neurological deficits: A retrospective cohort study of 403 patients. *Spine Surg Relat Res* 2019;3(2):171-177.
4. Hosogane N, Funao H (among authors) et al. Surgical treatment of osteoporotic vertebral fracture with neurological deficit– A nationwide multicenter study in Japan – *Spine Surg Relat Res* 2019;3(4):361-367.
5. Okada E, Funao H (among authors) et al. Spinal fractures in diffuse idiopathic skeletal hyperostosis: Advantages of percutaneous pedicle screw fixation. *J Orthop Surg (Hong Kong)* 2019;27(2):2309499019843407.
6. Takeda K, Funao H (among authors) et al. Association of susceptibility genes for adolescent idiopathic scoliosis and intervertebral disc degeneration with adult spinal deformity *Spine* 2019 [Epub ahead of print]
7. Murata K, Funao H (among authors) et al. The factors related to the poor ADL in the patients with osteoporotic vertebral fracture after instrumentation surgery. *Eur Spine J* 2020;29(7):1597-1605.
8. Watanabe K, Funao H (among authors) et al. Surgical outcomes of spinal fusion for osteoporotic vertebral fracture in the thoracolumbar spine: Comprehensive evaluations of 5 typical surgical fusion techniques. *J Orthop Sci* 2019. pii: S0949-2658(19)30251-9.
9. Sakai Y, Funao H (among authors) et al. Complications after spinal fixation surgery for osteoporotic vertebral collapse with neurological deficits: Japan Association of Spine Surgeons with ambition multicenter study. *J Orthop Sci.* 2019 Sep 11. pii: S0949-2658(19)30266-0.
10. Isogai N, Funao H (among authors) et al. Potential osteomyelitis biomarkers identified by plasma metabolome analysis in mice. *Sci Rep* 2020;10(1):839.
11. Igawa T, Funao H (among authors) et al. Establishment of a novel rehabilitation program for patients with dropped head syndrome: Short and intensive rehabilitation (SHAiR) program. *J Clin Neurosci* 2020; S0967-5868(19)31914-9.

12. Funao H, Kebaish F, Skolasky R, Kebaish K. Clinical results and functional outcomes after three-column osteotomy at L5 or the sacrum in adult spinal deformity. *Eur Spine J* 2020;29(4):821-830. (first author)
13. Isogai N, Funao H (among authors) et al. The surgical outcomes of spinal fusion for osteoporotic vertebral fractures in the lower lumbar spine with neurological deficit. *Spine Surg Relat Res* 2020; 4(3):199-207.
14. Kawabata A, Funao H (among authors) et al. Effect of Bisphosphonates or Teriparatide on Mechanical Complications after Posterior Instrumented Fusion for Osteoporotic Vertebral Fracture: A Multi-center Retrospective Study. *BMC Musculoskelet. Disord* 2020;21(1):420.
15. Ushirozako H, Ebata S (among authors), et al. Impact of sufficient contact between the autograft and endplate soon after surgery to prevent nonunion at 12 months following posterior lumbar interbody fusion. *J Neurosurg Spine*. 2020:1-10.
16. Ishikawa Y, Funao H (among authors) et al. Short- versus long-segment posterior spinal fusion with vertebroplasty for osteoporotic vertebral collapse with neurological impairment in thoracolumbar spine: a multicenter study. *BMC Musculoskelet. Disord* 2020;21(1):513.
17. Funao H, et al. The potential efficacy of serotonin noradrenaline reuptake inhibitor duloxetine in dropped head syndrome: A case report and review of the literature. *Heliyon* 2020; e04774. (first author and corresponding author)
18. Hosogane N, Funao H (among authors) et al. Reply to the editor: Surgical treatment of osteoporotic vertebral fracture with neurological deficit– A nationwide multicenter study in Japan – *Spine Surg Relat Res* 2020; 4(3):292-293.
19. Funao H, Kebaish F, Skolasky R, Kebaish K. Recurrence of proximal junctional kyphosis after revision surgery for symptomatic proximal junctional kyphosis in patients with adult spinal deformity: Incidence, risk factors, and outcomes. *Eur Spine J* 2021;30(5):1199-1207. (first author)
20. Ishihama H, Funao H (among authors) et al. An antibacterial coated polymer prevents biofilm formation and implant-associated infection. *Sci Rep* 2021;11(1):3602.
21. Funao H, Ebata S (among authors), et al. Idiopathic dorsal spinal cord herniation perforating the lamina: A case report and review of the literature *Acta Neurochirurgica* 2021 Aug;163(8):2313-2318. (first author and corresponding author)
22. Takahashi Y, Funao H, et al. The sequential MRI changes after lateral lumbar interbody fusion in spondylolisthesis with mild and severe lumbar spinal stenosis. *World Neurosurg* 2021 May 29;S1878-8750(21)00788-9.
23. Suzuki A, Funao H (among authors) et al. Effect of the short and intensive rehabilitation (SHAiR) program on dynamic alignment in patients with dropped head syndrome during level walking. *J Clin Neurosci* 2021 Sep;91:93-98. (corresponding author)

24. Igawa T, Funao H (among authors) et al. Prevalence of sarcopenia in idiopathic dropped head syndrome patients is similar to healthy volunteers. *Sci Rep* 2021 Aug 10;11(1):16213. (corresponding author)
25. Igawa T, Funao H (among authors) et al. Dynamic alignment changes during level walking in patients with dropped head syndrome: analyses using a three-dimensional motion analysis system. *Sci Rep* 11:18254, 2021. (corresponding author)
26. Hijikata Y, Funao H (among authors) et al. Association of occupational direct radiation exposure to the hands with longitudinal melanonychia and hand eczema in spine surgeons: A survey by the Society for Minimally Invasive Spinal Treatment. *Eur Spine J* 2021 Aug24, Online ahead of print.
27. Uehara M, Funao H (among authors) et al. Is blood loss greater in elderly patients under antiplatelet or anticoagulant medication for cervical spine injury surgery? a Japanese multicenter survey. *Spine Surg Relat Res.* 2021;6(4):366-372.
28. Nakajima H, Funao H (among authors) et al. Prognostic factors for cervical spinal cord injury without major bone injury in elderly patients. *Journal of Neurotrauma* 2022,
29. Isogai N, Funao H (among authors) et al. Respective correction rates of lateral lumbar interbody fusion and percutaneous pedicle screw fixation for lumbar degenerative spondylolisthesis. *Medicina (Kaunas)* 2022, 58(2), 169 (corresponding author)
30. Funao H, et al. Efficacy of Minimally Invasive Trans-sacral canal plasty between patients with and without failed back surgery syndrome. *Medicina (Kaunas)* 2022, 58(2), 251
31. Otomo N, Funao H, Yamanouchi K (among authors), et al. Computed tomography-based navigation system in current spine surgery: a narrative review. *Medicina (Kaunas)* 2022, 58(2), 241
32. Urata R, Funao H (among authors) et al. The short and intensive rehabilitation (shair) program improves dropped head syndrome caused by amyotrophic lateral sclerosis: A case report. *Medicina (Kaunas)* 2022, 58(3), 452.
33. Igawa T, Funao H (among authors) et al. Association between the horizontal gaze ability and physical characteristics of patients with dropped head syndrome. *Medicina (Kaunas)* 2022 Mar. 23, 58(4): 465.
34. Funao H, Yamanouchi K (among authors), et al. Comparative study of S2-alar-iliac screw trajectories between males and females using three-dimensional computed tomography analysis: True lateral angulation of S2-alar-iliac screw in the axial plane. *J Clin Med* 2022 Apr. 29, 11(9): 2511.
35. Ushirozako H, Ebata S (among authors), et al. Translucent Zone Between Autograft and Endplate Two Months Postoperatively Is an Independent Predictor of Delayed Osseous Union in Elderly Patients With Posterior Lumbar Interbody Fusion Surgery. *Cureus.* 2022;14(10):e30799.

36. Haro H, Ebata S (among authors), et al. Japanese Orthopaedic Association (JOA) clinical practice guidelines on the management of lumbar disc herniation, third edition - secondary publication. *J Orthop Sci.* 2022;27(1):31-78.
37. Ushirozako H, Ebata S (among authors), et al. Impact of Early Intervertebral Osseous Union After Posterior Lumbar Interbody Fusion on Health-Related Quality of Life. *Global Spine J.* 2022;12(3):399-408.
38. Hirota R, Funao H (among authors) et al. Prognostic factors for respiratory dysfunction for cervical spinal cord injury and/or cervical fractures in elderly patients: a multicenter survey. *Global Spine J* 2022;21925682221095470.
39. Nori S, Funao H (among authors) et al. Does surgery improve neurological outcomes in older individuals with cervical spinal cord injury without major bone injury? A multicenter study. *Spinal Cord* 2022;60(10):895-902.
40. Ishihara S, Funao H, et al. Minimally invasive spine stabilization for pyogenic spondylodiscitis: a 23-case series and review of literature. *Medicina (Kaunas)* 2022 Jun 1;58(6):754.
41. Uehara M, Funao H (among authors) et al. Factors affecting the waiting time from injury to surgery in elderly patients with cervical spine injury: A Japanese multicenter survey. *World Neurosurg* 2022;166:e815-e822.
42. Nori S, Funao H (among authors) et al. Comparison of surgical outcomes of posterior surgeries between cervical spondylotic myelopathy and ossification of the posterior longitudinal ligament. *Spinal Cord* 2022.
43. Yokogawa N, Funao H (among authors) et al. Differences in clinical characteristics of cervical spine injuries in older adults by external causes: A multicenter study of 1,512 cases. *Sci Rep* 2022 Sep 23;12(1):15867.
44. Fujibayashi S, Funao H (among authors) et al. Multicenter prospective study of lateral lumbar interbody fusions using bioactive porous titanium spacers without bone grafts. *Asian Spine J* 2022 Dec 5. doi:10.31616/asj.2021.0354. Online ahead of print.
45. Inoue G, Funao H (among authors) et al. Effect of low body mass index on clinical recovery after fusion surgery for osteoporotic vertebral fracture: A retrospective, multicenter study of 237 cases. *Medicine (Baltimore)* 2022 Dec 30;101(52):e32330.
46. Hikata T, Funao H (among authors) et al. Risk factors for early reoperation in patients after posterior lumbar interbody fusion surgery. A propensity-matched cohort analysis. *J Orthop Sci* 2022 Dec 21:S0949-2658(22)00339-6.
47. Kobayashi M, Funao H (among authors) et al. Risk factors for early mortality in older patients with traumatic cervical spine injuries -A multicenter retrospective study of 1,512 cases. *J Clin Med* 2023 Jan 16;12(2),708.

48. Segi N, Funao H (among authors) et al. Epidemiology of cervical fracture/cervical spinal cord injury and changes in surgical treatment modalities in elderly individuals during a 10-year period: A nationwide multicenter study in Japan. 2023 Jan 13;21925682231151643. *Global Spine J* 2023; 21925682231151643.
49. Nori S, Funao H (among authors) et al. Influence of the timing of surgery for cervical spinal cord injury without bone injury in the elderly: A retrospective multicenter study. *J Orthop Sci* 2023; S0949-2658(23)00010-6.
50. Okuwaki S, Funao H (among authors) et al. Characteristics of the cervical spine and cervical cord injuries in older adults with cervical ossification of the posterior longitudinal ligament. *Sci Rep* 2023;13(1):2689.
51. Yamada Y, Funao H (among authors) et al. Effects of dementia on outcomes after cervical spine injuries in patients: Evaluation of 1,512 cases in a nationwide multicenter study in Japan. *J Clin Med* 2023;12(5):1867.
52. Hijikata Y, Funao H (among authors) et al. Protective attitudes toward occupational radiation exposure among spine surgeon in Japan: An epidemiological description based on the survey by the Society for Minimally Invasive Spinal Treatment (MIST) *Medicina (Kaunas)* 2023 in Press
53. Urata R, Funao H (among authors) et al. Association between the phase angle and the severity of horizontal gaze disorder in patients with idiopathic dropped head syndrome: A cross-sectional study. *Medicina (Kaunas)* 2023 in Press
54. Suzuki H, Funao H (among authors) et al. Blunt cerebrovascular injury in the elderly with traumatic cervical spine injuries: Results of a retrospective multi-center study of 1512 cases in Japan. *Journal of Neurotrauma* 2023.
55. Tamai K, Funao H (among authors) et al. Delirium risk score in elderly patients with cervical spinal cord injury and/or cervical fracture. *J Clin Med.* 2023;12(6):2387.
56. Yamanouchi K, et al. Validation of a surgical drill with a haptic interface in spine surgery. *Sci Rep.* 2023;13(1):598.

2 症例報告

1. Funao H, et al. A rare case of intradural and extramedullary epidermoid cyst after repetitive epidural anesthesia: Case report and review of the literature. *World J Surg Oncol* 2017; 15(1):131. (first author)
2. Funao H, et al. Vertebroplasty with posterior spinal fusion for osteoporotic vertebral fracture using computer-assisted rod bending: A new minimally invasive technique. *Int J Surg Case Rep* 2020;72:301-305.

3. Isogai N, Funao H (among authors) et al. A rare case of non-traumatic atlantoaxial rotatory fixation in an adult patient treated by a closed reduction: A Case Report. *JBJS Case Connect* 2021;11(1).
4. Takana T, Funao H, Ebata S (among authors) et al. Unilateral C1 Posterior Arch Screw-C2 Laminar Screw Posterior Fixation for Vertebral Artery Preservation in Bow Hunter's Syndrome. *Case Rep Neurol* 2022;14:469-474.

英文著書

1. Funao H, et al. "Surgical Management of Thoracic Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament" *Contemporary Spine Surgery* Volume 19, Number 9, pp1-8, 2018.
2. Funao H, et al. "Navigated Pelvic Fixation." *Navigation and Robotics in Spine Surgery Part II Techniques for Navigation-Assisted Spine Surgery, Chapter18*, pp111-115, 2019.

学術論文（邦文）

20. 船尾陽生ら：第11回Asia Traveling Fellowship-韓国・マレーシア訪問記-. *J. Spine Res.* 8 : 1583-1584, 2017.
21. 美馬雄一郎, 小柳貴裕, 船尾陽生ら. 後脊髄動脈症候群に椎体梗塞を合併した1例」 *臨床整形外科* 52(6), 587-592, 2017.
22. 松本亮, 船尾陽生ら. 腰部脊柱管狭窄症の治療中に発症した両側急速破壊型股関節症の1例. *日関病誌*, 40 (4) : 434~438, 2021.

和文総説

1. 船尾陽生ら：II トラブルシューティング. 脊椎instrumentationの術後感染対策. 脊椎手術と合併症. *OS NEXUS* 14号, 154-163, 2018
2. 船尾陽生ら：最小侵襲脊椎安定術MIStの最前線. S2-alar iliac (S2AI) screw法のMIStへの応用. *整形外科最小侵襲手術ジャーナル*, 87号 : 69-79,2018.
3. 船尾陽生ら：腰椎すべり症に対するLIFを用いた最新治療. *Monthly Book Orthopaedics. 腰椎すべり症診療マニュアル* 31(8), 29-37, 2018.
4. 船尾陽生ら：「術者の被曝—術者の観点から」 *脊椎脊髄ジャーナル* 31(9) : 843-849, 2018.
5. 船尾陽生ら：骨粗鬆症性脊椎でのPPS挿入の工夫. *OS NEXUS No.18 [State of the Art 脊椎外科 ～レベルアップのための18の奥義～]* *OS NEXUS* 18, メジカルビュー社, 160-173, 2019.
6. 船尾陽生ら：—医療放射線被曝— 境界領域・知っておきたい. *臨床整形外科* 54(4): 500-505, 2019.

7. 磯貝宜広, 船尾陽生ら: がん治療における脊椎外科の役割 —転移性脊椎腫瘍を中心に—. 整形・災害外科 62: 895-900, 2019.
8. 船尾陽生ら: 感染性脊椎炎に対する MIS. Bone Joint Nerve Vol.9(4):569-575, 2019.
9. 磯貝宜広, 船尾陽生ら: 脊椎転移に対する低侵襲治療 —新しい取り組み—. 2-2 運動器疾患としての骨転移. がん患者の運動器疾患の診かた 115-120, 2019.
10. 船尾陽生ら: 脊柱管内治療 (経仙骨的脊柱管形成術) —Intraspinal Canal Treatment (Trans-sacral Canal Plasty) —. Part 4 新規医療機器・手術手技・薬物併用の奥義. 匠が伝える低侵襲脊椎手術の奥義, 372-380, 2019.
11. 船尾陽生ら: 低侵襲脊椎手術における職業被曝の実態と対策. 整形外科の職業被曝. 臨床整形 55(2): 143-148, 2020.
12. 船尾陽生: 首や腰の痛みとしびれの正体. 第 90 回健康セミナー. 三田メディカルクラブ ニュースレター, 2019 年 12 月
13. 横須賀公章, 船尾陽生ら: 経仙骨的脊柱管形成術(TSCP: Trans sacral canalplasty) —硬膜外腔癒着剥離術による疼痛治療—. Bone Joint Nerve Vol.9(4):577-581, 2019.
14. 名越慈人, 船尾陽生. 頰椎症脊髄症/頰椎後縦靱帯骨化症に対する頰椎椎弓形成術 (片開き式). 整形外科レジデントのための脊椎のベーシック手術. 日本医事新報社; p90-100, 2020.
15. 船尾陽生ら. 脊柱側彎症. 発生学から考えてみよう! 小児の先天疾患. 小児科診療 84(8): 1037-1046, 2021.
16. 山之内健人, 船尾陽生ら. O-arm: 術中CTガイド下ナビゲーションを用いた脊椎手術. I. 総論, Monthly Book Orthopaedics. 脊椎の外科基本手技. 34(10), 45-55, 2021.
17. 船尾陽生ら: 先天性筋性斜頸の診断と治療 —思春期・成人期まで遺残した例を含めて—. 上位頰椎疾患・外傷の病態と治療, 整形・災害外科65(9): 1165-1170, 2022年8月.
18. 名越慈人, 船尾陽生. 頰椎症脊髄症/頰椎後縦靱帯骨化症に対する頰椎椎弓形成術 (片開き式). 整形外科レジデントのためのベーシック手術. 日本医事新報社; p90-100, 2020 年 12 月.
19. 船尾陽生ら: 首下がり症候群に対する頰椎前後方同時矯正固定術. 1 章 頭蓋・頰椎. 整形外科医のための脊椎のアドバンス手術 上級医になるために標準～発展の手術手技をプロから学ぶ. 日本医事新報社; p66-79, 2022 年 10 月.
20. 富田卓, 船尾陽生ら. 経仙骨的脊柱管形成術. 新しい医療技術. 整・災外 65(13):1681-1685, 2022.
21. 山之内健人ら. 【脊椎の外科基本手技】総論 O-arm 術中 CT ガイド下ナビゲーションを用いた脊椎手術. Orthopaedics(0914-8124)34 巻 10 号 Page45-55(2021.10)

1. 船尾陽生. (編者) 整形外科レジデントのための脊椎のベーシック手術. 日本医事新報社, 2020.
2. 船尾陽生. (編者) 整形外科レジデントのためのベーシック手術. 日本医事新報社, 2022.

学会発表

国際学会口演

1. Funao H, et al.: A novel hydroxyapatite film coated with ionic silver via inositol hexaphosphate chelation prevents implant-associated infection. 46th The Japanese Society for Spine Surgery and Related Research, Japan (Sapporo), Apr. 2017.
2. Isogai N, Funao H (among authors): A novel hydroxyapatite film coated with ionic silver via inositol hexaphosphate chelation prevents implant-associated infection. 46th The Japanese Society for Spine Surgery and Related Research, Japan (Sapporo), Apr. 2017.
3. Takeda K, Funao H (among authors) et al.: Association of degenerative lumbar scoliosis with the genetic factors in adolescent idiopathic scoliosis and disc degeneration, The 52nd Scoliosis Research Society, Philadelphia, USA, 2017.
4. Funao H, Ebata S (among authors), et al. Comparative study of S2-alar-iliac screw and posterior iliac screw pathways between male and female using three-dimensional computed tomography. The 17th Pacific and Asian Society of Minimally Invasive Spine Surgery, Sapporo, July 27-29, 2017.
5. Funao H, et al. Surgical results and clinical outcomes after cervical laminoplasty for ossification of the posterior longitudinal ligament stratified by ASA-PS classification 9th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section New Delhi, India, Mar. 22-24, 2018.
6. Takeda K, Funao H (among authors) et al. Association of susceptibility genes for adolescent idiopathic scoliosis and intervertebral disc degeneration with degenerative lumbar scoliosis. 45th International Society for the Study of the Lumbar Spine (ISSLS), Banff, Canada, May 2018.
7. Funao H, et al. Analysis of anticipatory postural adjustments between normal and cervical spondylotic myelopathy patient. 10th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section, Yokohama, Japan, Mar. 15-16, 2019.
8. Matsumoto D, Funao H, et al. Utilization of Disabilities of the Arm, Shoulder, and Hand scoring system after surgical treatment for cervical spondylotic myelopathy. 10th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section, Yokohama, Japan, Mar. 15-16, 2019.
9. Isogai N, Funao H, et al. Comparison study of characteristic clinical features of C6 and C7 cervical radiculopathies. 10th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section, Yokohama, Japan, Mar. 15-16, 2019.

10. Takahashi Y, Funao H (among authors) et al. Radiographic evaluation of indirect neural decompression of lateral lumbar interbody fusion according to the severity of lumbar spinal stenosis. 1st SOLAS Asia Pacific&Japan combined meeting (2019年10月5日 Tokyo)
11. Yoshida K, Funao H (among authors) et al. The surgical correction of lateral lumbar interbody fusion and percutaneous pedicle screw for lumbar degenerative spondylolisthesis. 1st SOLAS Asia Pacific&Japan combined meeting (2019年10月5日 Tokyo)
12. Funao H, et al. Minimally invasive spine stabilization with sacropelvic fixation for spondylodiscitis in the lumbosacral spine. 4th International MIST Congress (2019年10月6日 Tokyo)
13. Funao H, et al. Is bipolar release of sternocleidomastoid muscle necessary for neglected congenital muscular torticollis? 13th Combined Meeting of Asia Pacific Spine Society & Asia Pacific Pediatric Orthopaedic Society (APSS-APPOS) (2021年6月9-12日 Kobe)
14. Otomo N, Funao H, et al. Usefulness of the disabilities of the arm, shoulder, and hand in evaluating surgical outcome of cervical spine disorders. 13th Combined Meeting of Asia Pacific Spine Society & Asia Pacific Pediatric Orthopaedic Society (APSS-APPOS) (2021年6月9-12日 Kobe)
15. Yamanouchi K, Funao H, et al. A rare case of idiopathic dorsal spinal cord herniation perforating the lamina. 13th Combined Meeting of Asia Pacific Spine Society & Asia Pacific Pediatric Orthopaedic Society (APSS-APPOS) (2021年6月9-12日 Kobe)
16. Isogai N, Funao H (among authors) et al. Non-traumatic atlantoaxial rotatory fixation in an adult patient treated by a closed reduction under general anesthesia in chronic phase. 13th Combined Meeting of Asia Pacific Spine Society & Asia Pacific Pediatric Orthopaedic Society (APSS-APPOS) (2021年6月9-12日 Kobe)
17. Isogai N, Funao H (among authors) et al. A novel intraoperative spino-pelvic parameter “thoracic 10 pelvic angle” can predict proximal junctional kyphosis after adult spinal deformity surgery. 13th Combined Meeting of Asia Pacific Spine Society & Asia Pacific Pediatric Orthopaedic Society (APSS-APPOS) (2021年6月9-12日 Kobe)
18. Kato S, Funao H, et al. Vertebroplasty with posterior spinal fusion for osteoporotic vertebral fracture using computer-assisted three-dimensional rod contouring system: a new minimally invasive technique. The 1st Annual Meeting of Society for Minimally Invasive Spine Surgery Asia Pacific (SMISS-AP) (2021年9月29-10月1日 Korea)
19. Isogai N, Funao H (among authors) et al. Ideal needle puncture angle and operability of the catheter during spinal cord stimulation procedure. The 1st Annual Meeting of Society for Minimally Invasive Spine Surgery Asia Pacific (SMISS-AP) (2021年9月29-10月1日 Korea)
20. Hijikata Y, Funao H (among authors) et al. Occupational direct radiation exposure to the hands with longitudinal melanonychia and hand eczema in spine surgeons: A survey by the Society for Minimally Invasive

Spinal Treatment in Japan. The 1st Annual Meeting of Society for Minimally Invasive Spine Surgery Asia Pacific (SMISS-AP) (2021年9月29-10月1日 Korea)

21. Funao H, et al. Is Sarcopenia Associated with the Onset of Dropped Head Syndrome? The 12th Annual Meetings of Cervical Spine Research Society-Asia Pacific (2022年6月23-25日, Beijing)
22. Isogai N, Funao H (among authors) et al. Elucidation of gait characteristics of patients with dropped head syndrome using a three-dimensional motion analysis. The 12th Annual Meetings of Cervical Spine Research Society-Asia Pacific (2022年6月23-25日, Beijing)
23. Isogai N, Funao H, et al. Trans-sacral canal plasty can be useful for predicting clinical outcomes of additional treatments for lumbar spinal disorders. The 2nd Annual Meeting of Society for Minimally Invasive Spine Surgery Asia Pacific (SMISS-AP) (2022年10月22-10月23日 Osaka)
24. Isogai N, Funao H, et al. Predictor and clinical impact of postoperative coronal tilt after cervical total disc replacement. 13th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section Yokohama, Japan, Mar. 10-11, 2023.
25. Yamanouchi K, Funao H (among authors) et al. The clinical features of posttraumatic dropped head syndrome. 13th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section Yokohama, Japan, Mar. 10-11, 2023.
26. Isogai N, Funao H, et al. The radiographic changes after short and intensive rehabilitation (SHAiR) program in patients with dropped head syndrome. 13th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section Yokohama, Japan, Mar. 10-11, 2023.
27. Funao H, et al. Utilization of the arm, shoulder, and hand (DASH) questionnaire in patients with cervical spine disorders. 13th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section Yokohama, Japan, Mar. 10-11, 2023.

国際学会ポスター

1. Funao H, et al.: The impact of patients' comorbidity on surgical results and clinical outcomes after cervical laminoplasty for cervical spondylotic myelopathy. 8th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section, Kobe, Japan, Mar. 9-11, 2017.
2. Ishihara S, Funao H (among authors) et al: The impact of patients' obesity on surgical outcomes after cervical laminoplasty in patients with cervical spondylotic myelopathy. 8th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section, Kobe, Japan, Mar. 9-11, 2017.
3. Isogai N, Funao H, et al. "An examination of pain in the scapular regions and cervical radiculopathy using selective nerve root block" 9th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section New Delhi, India, Mar 22-24, 2018.
4. Nagashima M, Funao H (among authors) et al. Anomalous insertion of the anterior horn of the medial meniscus: a case series of eleven patients. 2018 Asia-Pacific Knee, Arthroscopy and Sports Medicine Society (APKASS) Congress, Sydney, Australia, May 2018.

5. Suzuki A, Funao H (among authors) et al. Risk factors for residual low back pain after posterior lumbar interbody fusion. The 48th Annual Meeting of the International Society for the Study of the Lumbar Spine, Kyoto, Japan, June 2019.
6. Isogai N, Funao H (among authors) et al. Thoracic lateral interbody fusion and percutaneous pedicle screw fixation for spinal kyphosis due to osteoporotic vertebral fracture: a case report. 1st SOLAS Asia Pacific&Japan combined meeting (2019年10月5日 品川)
7. Funao H, et al.: Analysis of anticipatory postural adjustments between normal and cervical myelopathy patient. 47th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society, New York, Nov., 21-23, 2019.
8. Funao H, et al.: Virtual reality and mixed reality technologies for complex spine surgery. The 55th Scoliosis Research Society, ONLINE, USA, 2020.
9. Igawa T, Funao H (among authors) et al. Association between the horizontal gaze disorder and physical characteristics of patients with dropped head syndrome. 13th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section Yokohama, Japan, Mar. 10-11, 2023.
10. Urata R, Funao H (among authors) et al. Association between phase angle and the severity of horizontal gaze disorder in patients with idiopathic dropped head syndrome: a cross-sectional study. 13th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section Yokohama, Japan, Mar. 10-11, 2023.

国際学会・研究会講演

6. Funao H: Minimally invasive spine stabilization for spinal metastases and infectious diseases. 2nd International MIST Congress Invited Lecture (2017年7月29日 Sapporo)
7. Funao H: Safety and efficacy of minimally invasive versus open surgical techniques in the treatment of spinal metastases. 1st IASGO meeting (2017年11月4日 Luzhou)
8. Funao H: Utilization of virtual/ mixed reality technologies for minimally invasive and complicated spinal surgery. The 6th International Spine Symposium of Four Universities (Keio, UCSF, Yonsei, Peking). (2018年4月20日 Beijing)
9. Funao H: Complex spine surgery using intraoperative computed tomography navigation and virtual/mixed reality technologies. Tokyo Spine Seminar, invited speaker (2019年8月27日 Tokyo)
10. Funao H, et al.: Faculty Lecture. Minimally invasive trans-sacral canal plasty for failed back surgery syndrome. The 21st annual meeting of the Pacific and Asian Society of Minimally Invasive Spine Surgery (2021年7月2日 web)
11. Funao H, et al. Antiseptic Materials. The 1st Annual Meeting of Society for Minimally Invasive Spine Surgery Asia Pacific (SMISS-AP) (2021年9月29-10月1日 Korea) invited speaker

12. Funao H, et al. Clinical Updates on Dropped Head Syndrome. The 24th Seminar of the Study Group for Nerve and Spine (第24回脊椎と神経を語る会) 「Spinal Disorders: Updates in Diagnosis and Management」 (2022年3月19-20日 web) invited speaker
13. Funao H: Faculty Lecture. Adult Spinal Deformity Surgery - Reducing Blood Loss & Complications -. Basic Spine Surgical Techniques in Deformity Surgeries. APSS Basic Spine Webinar Series 2023. (2023年2月26日 web)
14. Funao H, et al.: Luncheon Seminar 3. Posterior spinal correction and fusion surgery for dropped head syndrome. 13th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section Yokohama, Japan, Mar. 10-11, 2023.

国内学会・研究会講演 (抜粋)

1. 船尾陽生: 脊椎の日常診療に紛れ込むレッドフラッグ・ピットフォール症例. 慶大脊椎症例検討セミナー(2017年9月14日 東京)
2. 船尾陽生: MIST治療の next stage -術後疼痛軽減と安全性確保を目指して-. 第1回国際脊椎カンファレンスショートレクチャー (2018年7月14日 東京)
3. 船尾陽生: あなたの知らない腰痛の世界!? 国際医療福祉大学三田病院熱血サマーセミナー (2018年7月20日 東京)
4. 船尾陽生: MIST治療のnext stage -骨粗鬆症対策と安全性の確保-. 第2回高知Spine Seminar. 特別講演 (2018年9月26日 高知)
5. 船尾陽生: 脊椎脊髄低侵襲治療の今後 -国際的にみた日本の役割- 第21回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 教育研修講演2 (2018年11月29-30日 東京)
6. 船尾陽生: S2-alar-iliac(S2AI)スクリュー法のMISTへの応用. 第21回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 イブニングセミナー2 (2018年11月29-30日 東京)
7. 船尾陽生: PPSの最前線 -Viper Prime システムについて-. 第21回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 ハンズオンセミナー2 (2018年11月29-30日 東京)
8. 船尾陽生: 脊椎低侵襲治療の最前線. 第223回港区慶應整形外科の会 特別講演 (2019年1月21日 品川)
9. 船尾陽生: 整形外科医がCアームに求めるもの. PHILIPS Product Introduction Meeting 招待講演 (2019年10月3日 東京)
10. 船尾陽生: 肩こり、腰痛の落とし穴. 国際医療福祉大学・高邦会グループ IUHWケースカンファレンス 「これで完璧! 外科系専攻医へのミニマルエッセンシャル」 講演 (2019年10月19日 赤坂)
11. 船尾陽生: 脊椎疾患における慢性疼痛治療. ショートレクチャー 第1回国際整形フォーラム (2019年12月7日 東京)
12. 船尾陽生: 頸椎疾患治療の最前線. ショートレクチャー 第1回国際頸椎カンファレンス (2020年1月30日 東京)

13. 船尾陽生: 成人脊柱変形術後のPJF・DJFに対するrevision surgeryの治療戦略. 教育セミナー10. 第29回日本脊椎インストゥルメンテーション学会 (2020年11月18日)
14. 船尾陽生: 低侵襲脊椎治療のUp to date -神経障害性疼痛対策を含めて-. 整形外科病病連携webセミナー (市原市医師会) (2021年3月5日 千葉web講演)
15. 船尾陽生, 他: 脊柱管内治療のこれまでとこれから -多施設共同研究-. 特別講演2. 第3回ISCTオンライン研究会 (2021年3月12日 web開催)
16. 船尾陽生: O arm を使用した OLIF25 手技上の工夫. 第 11 回大江戸 SPINE 手術手技セミナー (2021年7月8日 web講演)
17. 船尾陽生: 胸腰椎手術における合併症予防 (MIS) . Sesson 4. Expertise Lectures 3. The 21st ATST meeting (2021年10月16日 webinar)
18. 船尾陽生: Proximal Junctional Kyphosisのrevision. Case Panel Discussion. The 21st ATST meeting (2021年10月16日 webinar)
19. 船尾陽生: ランチョンセミナー9. 従来法脊椎手術の出血量低減化を目指して. 第11回最小侵襲脊椎治療学会 (2021年10月29-30日 東京 ハイブリッド開催)
20. 船尾陽生: ランチョンセミナー7. 手術部位感染SSIの低減化を目指して. 第24回日本低侵襲脊椎外科学会 (2021年11月25-26日 東京 ハイブリッド開催)
21. 船尾陽生ら: JALAS Archive Lectures 2. 腰椎変性すべり症に対するLIFの応用. 第8回日本脊椎前方側方侵入手術学会JALAS (2022年1月29日 岐阜web開催)
22. 船尾陽生: 特別講演1. 低侵襲骨盤固定術のこれまでとこれから. 第14回関東MIS研究会 (2022年2月19日 東京 ハイブリッド開催)
23. 船尾陽生: 特別講演1. 脊椎低侵襲治療における進歩と課題. -慢性疼痛コントロールを含めて-. 第11回OSSG (Osaka Spine Study Group) セミナー (2022年3月5日 大阪 ハイブリッド開催)
24. 船尾陽生ら. PJF・DJF に対するrevision surgery -骨粗鬆症対策を含めて-. アフタヌーンセミナー. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会 (2022年4月21日-23日 横浜)
25. 船尾陽生: ランチョンセミナー Spineコメンテーター. 形成外科医と考える領域別整形外科的創閉鎖のベストプラクティス -基本からより高い満足度向上まで-. 第95回日本整形外科学会学術集会 (2022年5月19日-22日 神戸)
26. 船尾陽生: 低侵襲脊椎治療における進歩と課題 -神経障害性疼痛対策を含めて-. 外房神経障害性疼痛セミナー (2022年7月6日 web講演)
27. 船尾陽生: くび・腰の痛みの正体に迫る. 国際医療福祉大学成田病院市民公開講座. “せぼね・手・足の痛み、あきらめていませんか?”(2022年7月16日 成田)
28. 船尾陽生: 講演. 止血におけるScience of Tissue Management (SoTM) ~エキスパート実践編~. -第3回MIS編-. (2022年9月28日 web開催)
29. 船尾陽生: ショートレクチャー. 脊椎手術におけるナビゲーションおよびVR技術の応用. 第15回関東MIS研究会 (2022年10月1日 品川)

30. 船尾陽生: 講演. 成人脊柱変形手術後PJP・DJFに対する治療戦略. 第11回 Tokyo Spine Conference (2022年11月12日東京ハイブリッド開催)
31. 船尾陽生: 特別講演2. 最小侵襲脊椎治療のup to date. 第4回国際整形フォーラム (2022年12月3日web開催)
32. 船尾陽生: ウェブ講演. 脊髄刺激療法 Spinal Cord Stimulation. 整形外科医から見たTSCPとSCSの可能性. SCSウェブ講演会刺激的ビフォーアフター (2023年3月27日webinar)
33. 船尾陽生: ウェブ講演. 片開き式脊柱管拡大術の変遷. Cervical laminoplastyの適応と限界 e-casebook (2023年3月31日 webinar)

主題・シンポジウム・パネルディスカッション ¥ (抜粋)

7. 船尾陽生ら: 最小侵襲脊椎治療 (MIST) への挑戦 –脊柱管内治療(経仙骨的脊柱管形成術)–. 第26回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (2019年9月6-7日 大阪) 主題
8. 船尾陽生ら: Complex spine surgeryにおける術中CT navigation および Virtual Reality 技術の応用. 第14回日本CAOS研究会・第26回日本最小侵襲整形外科学会 (2020年9月21-22 高知 hybrid 開催) CAOS 主題 VR/AR
9. 船尾陽生ら: 先天性筋性斜頸の遺残例に対する胸鎖乳突筋切腱術の治療成績 –上下端切離は本当に必要か?–. 第23回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会学術集会 (2020年9月24-25日 神戸) 主題
10. Funao H: Shanghai/Tokyo Adult Deformity Summit. (2017年11月9日 東京) パネル
11. 船尾陽生ら: LIFを用いたMIST手技の発展 –革新的効果と安全性の確保–. 第23回日本最少侵襲整形外科学会(2017年11月11日 東京) シンポジウム
12. 船尾陽生: 脊椎感染症におけるMISTの現在と未来. 第9日本MIST研究会 (2018年3月18日 東京) シンポジウム
13. 船尾陽生: 脊柱管内治療 (経仙骨的脊柱管形成術) の今までとこれから. 第24回日本最少侵襲整形外科学会 (2018年11月10日 名古屋) パネル
14. Funao H, Isogai N, Sugimoto M, Narita W, Tsuboi M, Sasao Y, Nishiyama M, Ishii K. CT-based navigation and virtual/mixed reality technologies for complex spinal surgery. 1st SOLAS Asia Pacific&Japan combined meeting (2019年10月5日 品川) シンポ
15. 船尾陽生ら. 脊柱管内治療の腰椎多数回手術例における治療成績と今後の展望. パネルディスカッション 脊椎 MIOS の先へ ~超低侵襲治療への挑戦~. 第25回日本最少侵襲整形外科学会 (2019年11月9日 日本橋) パネル
16. 船尾陽生ら. Trans-sacral spinal canal plasty for low back pain and leg pain in patients with failed back surgery syndrome. 第22回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 (2019年11月29日 高松) 学会メイン Determination シンポジウム (English session)

17. 船尾陽生ら. 明日に向けた脊椎外科医のための職業被曝の提言. —低侵襲脊椎手術における放射線被曝の実際と被曝量低減化への対策—. 第10回MIST学会学術集会 (2020年2月15日 神戸) シンポジウム
18. 船尾陽生ら. 経仙骨的脊柱管形成術 —脊椎手術後疼痛症候群における治療成績—. 第10回MIST学会学術集会 (2020年2月15日 神戸) シンポジウム
19. 船尾陽生ら. JSSR Traveling Fellow Session. —日本脊椎脊髄病学会アジアトラベリングフェローの経験を通じて—. 第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会 (2020年9月7-8日 神戸) シンポジウム
20. 船尾陽生ら. 経皮的椎弓根スクリュー (PPS) の変遷と適応疾患. 第69回東日本整形災害外科学会 (2020年9月18-19日 軽井沢→web開催) シンポジウム「脊椎低侵襲手術 up to date」
21. 船尾陽生ら. 脊椎手術後疼痛症候群に対する経仙骨的脊柱管形成術の除痛効果. 第27回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (JPSTSS) (2020年10月4日) シンポジウム —経仙骨的脊柱管形成術—
22. Funao H. Building a spine deformity practice outside of the United States. -Graduation to board certification: Everything a young spine deformity surgeon needs to know in the first 3 years of practice- Scoliosis Research Society Webinars for Professionals, Feb. 28, 2021. パネル
23. 船尾陽生ら. 成人脊柱変形術後 PJF に対する revision surgery の治療成績. 第11回日本成人脊柱変形学会 シンポジウム1 (2021年3月19日 岩手ハイブリッド開催)
24. 船尾陽生ら. 低侵襲脊椎手術における放射線被曝の実際と低減化対策. 第94回日本整形外科学会学術集会 (2021年5月20日~23日 東京 ハイブリッド開催) シンポジウム
25. Funao H. 3D modeling, navigation in spine surgery. *Spinal Surgery in Russia and Japan: Much in Common or Great Difference?* The Russian-Japan conference within the framework of the 2021 Eurasian Orthopedic Forum (2021年6月25日~26日 モスクワ web開催) シンポジウム
26. 船尾陽生ら. 脊椎手術後疼痛症候群に対する経仙骨的脊柱管形成術の実際. シンポジウム1 脊椎外科領域の低侵襲手術の実際1. 第70回東日本整形災害外科学会 (2021年9月17日 岩手 ハイブリッド開催) シンポジウム
27. 船尾陽生ら. 脊椎手術後疼痛症候群に対する硬膜外腔癒着剥離術の治療成績. シンポジウム2 腰痛疾患に対する最近のインターベンション. 第29回日本腰痛学会 (2021年10月22日 東京 ハイブリッド開催) シンポジウム
28. 船尾陽生ら. 経仙骨的脊柱管形成術の基本手技と多施設共同研究における臨床成績. 第11回最小侵襲脊椎治療学会 (2021年10月29-30日 東京 ハイブリッド開催) シンポジウム6 TSCP の How to (TSCP の始め方).

29. 船尾陽生ら. MIS-TLIF における放射線被曝の実際と低減化対策. 第 11 回最小侵襲脊椎治療学会 (2021 年 10 月 29-30 日 東京 ハイブリッド開催) シンポジウム 7 放射線被曝～MIST における放射線被曝の実際と低減化対策.
30. 船尾陽生ら. 脊椎手術後疼痛症候群に対する経仙骨的脊柱管形成術の除痛効果と合併症の検討. 第 24 回日本低侵襲脊椎外科学会 (2021 年 11 月 25-26 日 東京 ハイブリッド開催) シンポジウム 5 新たな ISCT の世界と現状.
31. 船尾陽生ら. 脊椎手術後疼痛症候群に対する経仙骨的脊柱管形成術の治療成績. 第 34 回日本内視鏡外科学会 (2021 年 12 月 2 日 神戸 ハイブリッド開催) パネルディスカッション 3 新たな脊椎内視鏡治療への取り組み -Intra-Spinal Canal Treatment-.
32. 船尾陽生ら. 脊椎外科医が考える脊柱管内治療 多施設研究から得られた最新知見. シンポジウム 1. 未来志向の脊柱管内治療 ～脊柱管内を覗く、そしてその先へ～. 第 11 回最小侵襲脊椎治療学会 (2022 年 6 月 24 日 富山 ハイブリッド開催) シンポジウム.
33. 船尾陽生 PJK revision 術後に首下がりを生じた 1 例. ASD における術後合併症予防. Stryker's Web Consultation for Adult Spinal Deformity. (2022 年 8 月 5 日 web) パネリスト
34. 船尾陽生ら. 慢性腰痛・下肢痛に対する経仙骨的脊柱管形成術の治療成績 - 脊椎手術後疼痛症候群に注目して -. 第 71 回東日本整形災害外科学会 (2022 年 9 月 16-17 日 グランドプリンスホテル高輪) シンポジウム 最小侵襲脊椎治療 MIST の最前線

国内学会

一般口演(抜粋)

1. 船尾陽生ら.: 3次元骨盤CTを用いた骨盤固定スクリュー刺入経路の解析-男女間での比較-.第20回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会(2017年7月27-28日 札幌)
2. 船尾陽生ら.: 3次元骨盤CTを用いた骨盤固定スクリュー刺入経路の解析 -男女間での比較-. 第51回日本側彎症学会学術集会(2017年8月24-25日 札幌)
3. 船尾陽生ら.: 頰椎後縦靭帯骨化症に対する後方除圧術の治療成績 -ASA分類による比較-. 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業【脊柱靭帯骨化症に関する調査研究】日本医療研究開発機構研究費難治性疾患実用化研究事業【脊柱靭帯骨化症の治療指針策定および手術治療の質を高めるための大規模多施設研究】【後縦靭帯骨化症に対する骨化制御機構の解明と治療法開発に関する研究】平成29年度第2回合同班会議 (2017年11月25日 東京)
4. 船尾陽生ら.: 胸髄症を呈した極めて稀な脊髄椎弓内嵌頓の1例. 第19回圧迫性脊髄症研究会「過去から学ぶ脊髄症治療」(2018年1月20日 東京)
5. 船尾陽生ら.: バーチャルリアリティー (VR) 技術を用いた低侵襲脊椎手術の3例. 第10回関東MIST研究会 (2018年2月3日 東京)
6. 船尾陽生ら.: 後縦靭帯骨化症に対する頰椎後方除圧術の治療成績 -ASA分類による比較検討-. 第58回関東整形災害外科学会 (2018年3月16-17日 東京)

7. 船尾陽生ら. 脊椎後弯変形による著しい姿勢バランス不良に対する第5腰椎もしくは仙椎での後方脊柱骨切り術. 第18回日本抗加齢医学会総会 (2018年5月26日 大阪)
8. 船尾陽生ら. 頰椎疾患患者における上肢機能障害に関連したADL制限の解析 — DASHを用いた検討—. 第8回Japan Association of Spine Surgeons with Ambition (JASA) (2019年8月4日 横浜)
9. 船尾陽生ら. 3次元骨盤CTを用いた骨盤固定スクリュー刺入経路の解析 —男女間での比較—. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会 (2019年10月17-18日 横浜)
10. 船尾陽生ら. 腰仙移行部における化膿性脊椎炎に対して低侵襲骨盤固定法を用いたMIStの中長期治療成績. 第22回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 (2019年11月28-29日 高松)
11. 船尾陽生ら. 悪性末梢神経鞘腫に対する右骨盤半裁術後にL5-S1椎間の不安定性を呈した1例. 第21回圧迫性脊髄症研究会 (2020年1月18日 東京)
12. 船尾陽生ら. 頰椎症性脊髄症患者における先行随伴性姿勢調節機能の解析. 第93回日本整形外科学会学術集会 (2020年6月11日~8月31日 福岡→web開催)
13. 船尾陽生ら. 頰椎症性脊髄症患者は先行随伴性姿勢調節機能の低下と歩幅の短縮化を起こす. 第35回日本整形外科学会基礎学術集会 (2020年10月16日 web開催)
14. 船尾陽生ら. 思春期・成人期まで遺残した先天性筋性斜頸に対する胸鎖乳突筋切腱術の治療成績 —胸鎖乳突筋上下端切離は本当に必要か?—. 第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会 (2021年4月22-24日 国立京都国際会館 ハイブリッド開催)
15. 船尾陽生ら. Failed back surgery syndrome に対する経仙骨的脊柱管形成術の治療成績. 第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会 (2021年4月22-24日 国立京都国際会館 ハイブリッド開催)
16. 船尾陽生ら. 首下がり症候群の発症にサルコペニアは関連するか? —首下がり症候群における体幹・四肢骨格筋量の検証—. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会 (2022年4月21日-23日 横浜)
17. 船尾陽生ら. 首下がり症候群の発症にサルコペニアは関連するか? —首下がり症候群における体幹・四肢骨格筋量の検証—. 第95回日本整形外科学会学術集会 (2022年5月19日-22日 神戸)
18. 船尾陽生ら. 頰椎術前患者における上肢機能障害に関連したADL制限 —DASHを用いた解析—. 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業【脊柱靭帯骨化症に関する調査研究】日本医療研究開発機構研究費難治性疾患実用化研究事業【脊柱靭帯骨化症の治療指針策定および手術治療の質を高めるための大規模多施設研究】【後縦靭帯骨化症に対する骨化制御機構の解明と治療法開発に関する研究】令和4年度第2回合同班会議 (2022年11月11日 ハイブリッド開催)
19. 船尾陽生ら. 首下がり症候群に対するセロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬の潜在的効果. 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会 (2023年4月13日-15日 札幌)

ポスター(抜粋)

3. 船尾陽生ら.: 頰椎症性脊髄症に対する後方除圧術の治療成績 -ASA 分類による比較検討-.第 46 回日本脊椎脊髄病学会学術集会(2017 年 4 月 13-15 日 札幌)
4. 船尾陽生ら.: 3 次元骨盤 CT を用いた日本人における理想的な仙骨骨盤固定スクリューの刺入経路の解析. 第 46 回日本脊椎脊髄病学会学術集会(2017 年 4 月 13-15 日 札幌)
5. 船尾陽生ら.: 第 11 回 Asia Traveling Fellowship -韓国・マレーシア訪問記-. 第 46 回日本脊椎脊髄病学会学術集会(2017 年 4 月 13-15 日 札幌)
6. 船尾陽生ら. ASA 分類による頰椎後方除圧術の治療成績比較. 第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 (2018 年 4 月 13 日 神戸)
7. 船尾陽生ら. 3 次元骨盤 CT を用いた骨盤固定スクリュー刺入経路の解析 -男女間での比較-. 第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 (2018 年 4 月 13 日 神戸)
8. 船尾陽生ら. 脊椎疾患による神経根症状に似た帯状疱疹による神経痛様疼痛. 第 18 回日本抗加齢医学会総会 (2018 年 5 月 27 日 大阪)
9. 船尾陽生ら. 頰椎後縦靱帯骨化症に対する後方除圧術の ASA 分類による治療成績比較. 第 48 回日本脊椎脊髄病学会 (2019 年 4 月 18-20 日 横浜)
10. 船尾陽生ら. 3 次元骨盤 CT を用いた理想的な仙骨骨盤固定スクリュー経路の解析 -日本人男女間での比較-. 第 92 回日本整形外科学会学術集会 (2019 年 5 月 12 日 横浜)
11. 船尾陽生ら. 頰椎症性脊髄症ならびに後縦靱帯骨化症患者における先行随伴性姿勢調節機能の解析 -健常者との比較-. 第 9 回国際医療福祉大学学術大会 (2019 年 9 月 15-16 日 東京)
12. 船尾陽生ら. 頰髄症患者における先行随伴性姿勢調節機能の解析. 第 34 回日本整形外科学会基礎学術集会 (2019 年 10 月 17-18 日 横浜)
13. 船尾陽生ら. 頰椎症性脊髄症における上肢機能障害に関連した日常動作制限の解析 -DASH を用いた解析-. 第 93 回日本整形外科学会学術集会 (2020 年 6 月 11 日~8 月 31 日 福岡→web 開催)
14. 船尾陽生ら. 頰髄症患者における先行随伴性姿勢調節機能の解析. 第 10 回国際医療福祉大学学術集会 (2020 年 11 月 8 日 web 開催)
15. 船尾陽生ら. 頰椎疾患における DASH を用いた上肢機能に関連した ADL 制限の解析 -DASH と既存評価法との相関はあるか?-. 第 50 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 (2021 年 4 月 22-24 日 国立京都国際会館 ハイブリッド開催) ポスターアワードセッション
16. 船尾陽生ら. 思春期・成人期における筋性斜頸遺残例に対する胸鎖乳突筋切腱術の治療成績 -胸鎖乳突筋上下端切離は本当に必要か-. 第 94 回日本整形外科学会学術集会 (2021 年 5 月 20 日~23 日 東京 ハイブリッド開催)

17. 船尾陽生ら. 頸髄症患者は先行随伴性姿勢調節機能の低下と歩幅の短縮化を起こす. 第 11 回国際医療福祉大学学会学術大会 (2021 年 11 月 14 日 成田, ハイブリッド開催)
18. 船尾陽生ら. 脊椎手術後□痛症候群における硬膜外腔癒着剥離術の治療成績. 第 51 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 (2022 年 4 月 21 日-23 日 横浜)
19. 船尾陽生ら. 思春期・成人期まで遺残した先天性筋性斜頸に対する胸鎖乳突筋切□術の治療成績—上下端切□術と下端切□術の比較—. 第 51 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 (2022 年 4 月 21 日-23 日 横浜)
20. 船尾陽生ら. 先行随伴性姿勢調節機能障害は頸椎症性脊髄症における転倒リスクの一因か? 第 12 回国際医療福祉大学学会学術大会 (2022 年 8 月 28 日 大川キャンパス, ハイブリッド開催)
21. 船尾陽生ら. DASH questionnaire を用いた頸椎症性脊髄症の上肢機能障害による日常動作制限の解析 第 37 回日本整形外科学会基礎学術集会 (2022 年 10 月 13-14 日 宮崎)
22. 船尾陽生ら. 頸椎術前患者における DASH スコアと既存評価法との関連. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 (2023 年 4 月 13 日-15 日 札幌)

学会賞

1. 船尾陽生ほか: 第 46 回日本脊椎脊髄病学会 English Presentation Award 受賞, “A novel hydroxyapatite film coated with ionic silver via inositol hexaphosphate chelation prevents implant-associated infection”, 2017 年 4 月 13-15 日, 札幌
2. 船尾陽生ほか: 第 10 回関東 MIST 研究会 Best Paper Award 受賞, “バーチャルリアリティー(VR)技術を用いた低侵襲脊椎手術の 3 例”, 2018 年 2 月 3 日, 東京
3. 高橋慶行ほか: 第 13 回関東 MIST 研究会 Best Paper Award 受賞 “側方経路椎体間固定術による間接除圧効果の画像的検討. —腰椎変性すべり症における術前狭窄の程度に注目して—”, 2019 年 9 月 28 日, 東京
4. Takahashi Y ほか: 1st SOLAS Asia Pacific&Japan combined meeting Best Oral Presentation Award 受賞 “Radiographic evaluation of indirect neural decompression of lateral lumbar interbody fusion according to the severity of lumbar spinal stenosis”, 2019 年 10 月 5 日, 品川
5. 船尾陽生ほか: 第 25 回日本最小侵襲整形外科学会 最優秀口演賞受賞 “脊柱管内治療の腰椎多数回手術例における治療成績と今後の展望”, 2019 年 11 月 9 日 日本橋
6. 吉田宏大ほか: 第 22 回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 Poster Award 受賞 “腰椎変性すべり症に対する側方経路腰椎椎体間固定術と経皮的椎弓根スクリューのすべり矯正効果”, 2019 年 11 月 29 日 高松
7. 山之内健人ほか: 第 11 回最小侵襲脊椎治療学会症例検討ベストリカバリーアワード受賞 2021 年 10 月 29 日 東京

8. 相原憲行ほか: 第704回関東整形災害外科学会月例会優秀演題賞受賞 2022年2月26日 web
開催
9. Igawa Tほか: Association between the horizontal gaze disorder and physical characteristics of patients with dropped head syndrome. Best Poster Presentation Award受賞13th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section, Yokohama, Japan, Mar. 10-11, 2023.

下肢班

學術論文 (英文)

1 原著論文

1. Takeshima K, Nishiwaki Y, Suda Y, Niki Y, Sato Y, Kobayashi T, Miyamoto K, Uchida H, Inokuchi W, Tsuji T, Funayama A, Nakamura M, Matsumoto M, Toyama Y, Miyamoto T. A missense single nucleotide polymorphism in the ALDH2 gene, *rs671*, is associated with hip fracture. *Sci Rep.*, 2017 Mar 27;7(1):428.
2. Ota T, Nagura T, Kokubo T, Kitashiro M, Ogihara N, Takeshima K, Seki H, Suda Y, Matsumoto M, Nakamura M. Etiological factors in hallux valgus, a three-dimensional analysis of the first metatarsal. *J Foot Ankle Res.*, 2017 Oct 10;10:43.
3. Seki H, Suda Y, Takeshima K, Kokubo T, et al. Minimally invasive distal linear metatarsal osteotomy combined with selective release of lateral soft tissue for severe hallux valgus. *J Orthop Sci.*, 23(3) :557-564, 2018.
4. Sasaki R, Nagashima M, Otani T, Okada Y, Aida S, Takeshima K, et al. "Suture Anchor Repair With Fully Threaded Knotless Anchors for Quadriceps Tendon Rupture Resulted in Favorable Outcomes After 2 Years." *Arthrosc Sports Med Rehabil* 2021 Oct 28;3(6):e1931-e1936. doi: 10.1016/j.asmr.2021.09.012.
5. Nagashima M, Takeshima K, et al. "Not Using a Tourniquet May Reduce the Incidence of Asymptomatic Deep Venous Thrombosis After ACL Reconstruction: An Observational Study" *Orthop J Sports Med* 2021 Dec 6;9(12):23259671211056677. doi: 10.1177/23259671211056677.
6. Nagashima M, Otani T, Harato K, Sasaki R, Seki H, Takeshima K, et al. "Lateral patellar facetectomy reduces the incidence of anterior knee pain in patellar resurfaced total knee arthroplasty" *J Knee Surg* 2022 Feb 21. doi: 10.1055/s-0042-1743226.
7. Nagashima M, Takeshima K, Sasaki R, et al. "Optimal time period for blood glucose level evaluation after total knee arthroplasty in patients without diabetes: a prospective, observational study" *Journal of Orthopaedic Surgery and Research* 2022 Feb 24;17(1):124. doi: 10.1186/s13018-022-03023-6.
8. Sasaki R, Nagashima M, Takeshima K, Otani T, et al. "Association between magnetic resonance imaging characteristics and pathological findings in entire posterior cruciate ligament with mucoid degeneration" *J. Int. Med. Res* 2022 Mar;50(3):3000605221084865.

9. Sasaki R, Nagashima M, Otani T, Okada Y, Aibara N, Takeshima K, et al. “Pressurized carbon dioxide lavage reduces the incidence of a radiolucent line around the tibial component two years after total knee arthroplasty” *Journal of Orthopaedic Surgery and Research* 2022 Jul 15;17(1):349. doi: 10.1186/s13018-022-03204-3.
10. Seki H, Suda Y, Takeshima K, Nagashima M, et al. “Patient-Reported Outcomes of Minimally Invasive Distal Linear Metatarsal Osteotomy for Hallux Valgus” *Journal of the American Podiatric Medical Association*. 2022 Jul-Aug;112(4):21-186. doi: 10.7547/21-186.

2 症例報告

1. Sasaki R, Nagashima M, Takeshima K, et al. “Association between magnetic resonance imaging characteristics and pathological findings in entire posterior cruciate ligament with mucoid degeneration” *J Int Med Res*. 2022 Mar;50(3):3000605221084865. doi: 10.1177/03000605221084865.
2. Sasaki R, Nagasima M, Aibara N, Aomatsu S, Aida S, Takeshima K, et al. “Simultaneous bilateral quadriceps tendon rupture in a healthy young male: a case report” *BMC* 2023 Mar 07;

学術論文（邦文）

1. 竹島憲一郎, 早稲田明生. Charcot foot の足をケアする靴と装具～糖尿病との関連を中心に～. 日本フットケア学会雑誌. 17(1):13-18,2019.
2. 竹島憲一郎ら.両側のアキレス腱症に対して鏡視下アキレス腱周囲剥離術と Gastrocnemius recession を同時に行った 1 例. 日本足の外科学会誌, 日本足の外科学会雑誌 41 (1) : 292-295, 2020.
3. 竹島憲一郎ら.下肢手術に対する超音波ガイド下末梢神経ブロック. 整形外科最小侵襲手術ジャーナル, 2020;94:70-76(2020.2).
4. 竹島憲一郎, 須田康文. 足関節・足部周辺の外傷・障害の病態特性. 理学療法, 2021;38(3):196-204(2021.3).
5. 竹島憲一郎ら.足関節後方インピンジメント症候群(PAIS)に対する後足部内視鏡手術. 整形外科最小侵襲手術ジャーナル, 2021;100:2-10(2021.9).
6. 松本亮, 長島正樹, 中村賢, 関広幸, 須田康文, 船尾陽生, 竹島憲一郎ら. 腰部脊柱管狭窄症の治療中に発症した両側急速破壊型股関節症の 1 例. 日関病誌, 40(4), 2021.
7. 中村賢, 竹島憲一郎ら. 新規開設大学病院における下肢グループ診療 -人工関節置換術に注

目して-. 日本人工関節学会誌 52:395-396, 2022

8. 竹島憲一郎ら. ダンス. 臨床整形外科 もう悩まないこどもと思春期の整形外科診療, 医学書院, 654-663, 2022.

著書

1. 竹島憲一郎. アスリートの外反母趾, 外反母趾病態を理解し. 正しい治療選択ができる. 須田康文 編著. Medical View 社, 190-196, 2019.
2. 竹島憲一郎. ダンス解剖学第2版 武田淳也 編著明ベースボールマガジン社, 2021
3. 竹島憲一郎, 須田康文. その他の種子骨・過剰骨障害. 近藤英二ら. 編著, 下肢のスポーツ外傷・障害, 中山書店, 2021年6月:pp360-365
4. 竹島憲一郎. 外反母趾に対するDLMO法. 古賀英之 編著, 整形外科医のための下肢のアドバンス手術, 日本医事新報社, 2022年2月:pp204-221
5. 竹島憲一郎, 須田康文. アキレス腱断裂, 外側靭帯損傷. 小林龍生ら. 編著, リハビリテーション診療クリニカルガイド, 南山堂, 2022年8月:pp165-173
6. 竹島憲一郎. 足関節果部骨折, 踵骨骨折, その他の足部の骨折. 田島康介 編著, 高齢者骨折外傷診療マニュアル, 金芳堂, 2022年07月:pp331-344

学会発表・その他

1 学術集会における講演(国外)

1. Takeshima K, Miyamoto K, Nakamura M, Matsumoto M. A single missense nucleotide polymorphism in the ALDH2 gene with hip fracture. 39th ASBMR Annual Meeting, Denver, USA, 2017.

2 主題・パネル・シンポジウム(抜粋)

1. 竹島憲一郎ら. ダンサーの足部傷害の診断～継続した治療につなげるために必要なこと. 第43回日本足の外科学会学術集会(2018年11月2日-3日 千葉) Rising Star Session
2. 竹島憲一郎ら. 肥満と変形性関節症. 第59回関東整形災害外科学会学術集会(2019年3月22日-23日 東京)レビューセッション
3. 竹島憲一郎ら. ダンサーの寿命を延ばす MIOS～足関節・足部傷害を中心に～ 第25回日本最小侵襲整形外科学会.(2019年11月9日 東京)シンポジウム
4. 竹島憲一郎, 関広幸, 須田康文. 外反母趾に対する足底挿板療法. 第34回日本靴医学学術集会(2020年9月11日-10月31日 WEB開催)

5. 竹島憲一郎, 長島正樹, 関広幸, 須田康文ら.足部・足関節周辺の治療戦略～変性疾患からスポーツ障害・外傷まで～. 第 48 回日本関節病学会(2020 年 10 月 30 日-31 日 WEB 開催)会長推薦臨床実践講座
6. 竹島憲一郎ら. バレエダンサーに多くみられるオーバーユース障害～足部疲労骨折を中心に～第 45 回日本足の外科学会学術集会(2020 年 11 月 26 日-27 日 WEB 開催)シンポジウム
7. 竹島憲一郎, 須田康文ら 女性アスリートのための靴ーハイヒールやトゥシューズを中心にーFootwear on dancers. 第 35 回日本靴医学学術集会(2021 年 9 月 4 日 WEB 開催)シンポジウム
8. 竹島憲一郎. 小児における足と靴に関するレビュー及び最近の知見. 第 36 回日本靴医学学術集会(2022 年 9 月 2 日) シンポジウム

3 一般演題(抜粋)

1. 竹島憲一郎, 宮本健史, 松本守雄, 中村雅也. 2 型アルデヒド脱水素酵素(ALDH2)遺伝子の一塩基多型は, 大腿骨近位部骨折の発症に関与する. 第 35 回日本骨代謝学会(2017 年 7 月福岡)一般演題
2. 竹島憲一郎, Lisfranc 関節の変形性変化を伴った外反母趾患者における足部形態の変化と臨床症状の評価. 第 92 回日本整形外科学会学術総会 (2019 年 5 月 横浜)一般演題
3. 竹島憲一郎. 新規開設病院における足の外科診療の実際. 第46回日本足の外科学会学術集会 (2021年11月11日ー12日 東京, ハイブリッド開催)
4. 中村賢, 竹島憲一郎ら.新規開設大学病院における下肢グループ診療ー人工関節置換術に注目してー. 第52回日本人工関節学会 (2022年2月26日 京都)
5. 佐々木遼, 長島正樹, 大谷俊郎, 相原憲行, 青松修二, 竹島憲一郎ら. 後縦靭帯ムコイド変性のMRI所見と変性靭帯全体の病理所見の関連を評価し得た 1 例. 第62回関東整形災害外科学会 (2022年3月11日 東京)
6. 竹島憲一郎.外反母趾に合併するLisfranc関節症の進行に寄与する因子の検討. 第95回日本整形外科学会学術総会 (2022年5月19日 神戸)
7. 竹島憲一郎.変形性足関節症に対する保存療法の有効性の評価方法に関する新たな試み. 第47回日本足の外科学会学術集会 (2022年11月14日 愛媛)

4 ポスター(抜粋)

1. 竹島憲一郎, 宮本健史, 中村雅也, 松本守雄. 2 型アルデヒド脱水素酵素(ALDH2)遺伝子多型と大腿骨近位部骨折の発症に関する疫学的検討. 第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会.(2017 年 10 月 沖縄) ポスター

2. 竹島憲一郎, 小久保哲郎. 第 2 足根中足関節に変形性変化を伴った外反母趾の X 線学的検討. 第 42 回日本足の外科学会 (2017 年 11 月 名古屋) ポスター
3. 新田唯奈, 関広幸, 須田康文, 田辺理恵, 土屋里沙, 竹島憲一郎. 舟状骨脱臼骨折後の変形性距舟関節症に対し距舟関節固定術を施行した 2 例-術後歩行解析-外反母趾患者の歩行分析-. 第 44 回日本足の外科学会(2019 年 9 月 北海道) ポスター
4. 竹島憲一郎ら. 両側のアキレス腱炎に対して内視鏡手術と Gastrocnemius recession を同時に行い良好な成績を得た 1 例. 第 44 回日本足の外科学会(2019 年 9 月 北海道) ポスター
5. 別所雅彦, 善田督史, 竹島憲一郎, 新井健. 定量的 CT 画像を用いた三次元有限要素法による椎体骨強度評価-解析信頼性について-. 第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会 (2021 年 10 月 14 日-15 日 三重, ハイブリッド開催)
6. 別所雅彦, 善田督史, 小林晃, 波平真人, 山田正美, 竹島憲一郎, 養田祐平, 柳原泰, 新井健. CT/有限要素法による骨粗鬆症性脆弱性骨折患者の椎体と大腿骨近位部の強度の関係性. 第 11 回国際医療福祉大学学会学術大会 (2021 年 11 月 14 日 成田, ハイブリッド開催)
7. 須田康文, 土屋里沙, 関広幸, 田辺理恵, 新田唯奈, 竹島憲一郎. 外反母趾が歩行動作に与える影響の三次元動作解析による縦断的研究-立位時下肢アライメントと歩行時足部荷重中心の軌跡-. 第 11 回国際医療福祉大学学会学術大会 (2021 年 11 月 14 日 成田, ハイブリッド開催)
8. 長島正樹, 大谷俊郎, 相原憲行, 加藤修三, 岡田善史, 佐々木遼, 大伴直央, 磯貝宜広, 笹生豊, 竹島憲一郎ら. 空気止血帯非使用により ACL 再建術後の DVT の発生率は低下する. 第 95 回日本整形外科学会学術総会 (2022 年 5 月 19 日 神戸)
9. 長島正樹, 大谷俊郎, 相原憲行, 加藤修三, 岡田善史, 佐々木遼, 大伴直央, 磯貝宜広, 笹生豊, 竹島憲一郎ら. TKA 術後至適血糖測定時期と術後高血糖に関連する因子の検討-前向き研究-. 第 95 回日本整形外科学会学術総会 (2022 年 5 月 21 日 神戸)
10. 中村賢, 竹島憲一郎ら. 新規大学病院の開設時における下肢疾患診療の立ち上げ. 第 95 回日本整形外科学会学術総会 (2022 年 5 月 22 日 神戸)

5 その他講演(抜粋)

1. 竹島憲一郎. ひざ・股関節の痛みと治療~いつまでも元気に歩き続けるために~(2017 年 6 月 24 日 化研セミナー)講演
2. 竹島憲一郎. バレエダンサーの足部傷害について. (2019 年 3 月 7 日 医療連携症例報告会)講演
3. 竹島憲一郎. ~ころばぬ先の杖になる話~ひざ関節・股関節の痛みと治療について. (2019 年 3 月 16 日 第 4 回メディカルセミナー)講演
4. 竹島憲一郎. バレエダンサーの傷害と治療の実際.(2019 年 9 月 7 日 東京 第 1 回国際

医学フォーラム)ミニレクチャー

5. 竹島憲一郎. 足関節骨折～「骨はつきました」で終わらせないために～(2020年10月11日 Trauma Advance Preparation Seminar) 講演
6. 竹島憲一郎. 足関節骨折のABC～「骨はつきました」で終わらせないために～(2021年1月22日 第3回慶應義塾大学WEB外傷カンファレンス) 講演
7. 竹島憲一郎. バレエダンサーのACL損傷に対する治療.(2021年3月6日 東京 第4回国際運動器フォーラム)ミニレクチャー
8. 竹島憲一郎. ひざ・股関節・足の治療最前線. (2022年7月16日 国際医療福祉大学成田病院市民公開講座)講演
9. 竹島憲一郎ら. 足からはじめるアンチエイジング (2022年11月27日 第12回運動器抗加齢医学研究会) 講演
10. 竹島憲一郎. 足部・足関節に対する治療戦略.(2022年12月3日 第4回国際整形フォーラム) 講演
11. 竹島憲一郎. ダンサーを診る～診察前の基礎知識から治療の際のコツまで～ (2022年12月20日 Sports medicine web seminar) 講演

6 マスコミ関連

1. 須田康文, 竹島憲一郎: 2022/3/26 20:00～20:45 NHK Eテレ チョイス@病気になるるとき 「50代から多発!足の痛み」